

七友会 だより

定年退職を迎えて

池田 成一



私が岩手大学に赴任したのは1986年10月です。釜石市の生まれですが、小4で愛知県東海市に、中1で東京都杉並区に、高3で神奈川県藤沢市に転居しました。首都圏で20年以上暮し、もう岩手出身という自覚も薄れた33歳のとき偶然就職できました。研究室の先輩から、地方出身者で出身県の大学に就職できたのは知る限りいなかったと言われ、これも何かのめぐりあわせかなと思ったことがいつも思い出されます。それから32年半の時間がたって、まわりの皆様のおかげで無事に定年退職を迎えることができました。ありがとうございました。

赴任してからしばらくは、せっかく盛岡に就職した利点を生かそうと、よく安比や雫石にスキーに行きました。もともとスポーツは苦手でしたが、スキーは習得手順が体系化されているのでなんとか滑れるようになると、スピードのもたらず快感を求めてかなり熱中しました。私は車の運転ができず、運転できる妻は寒がりなので、同好の同僚たちの車に便乗して行くことが多かったのですが、ゼミの学生たちとスキー合宿もやりました（ただその後、大学改革による多忙化や、学生がスキーをやらなくなったことで、スキーに行く機会が無くなったのはまことに残念なことでした）。また、教員仲間で音楽グループを組んで室内楽などを練習し、卒業式の祝賀会や組合の会合で演奏したことも、岩手大学に来なければできなかったことだと思います。

さて、最初に就職したのは、創立当時からの欧米研究の「欧米思想史」担当としてでしたが、2000年の学部改組の時に文化システムコースが新設されることになり、このコースで欧米という名前をはずして「社会文化思想論」を担当することになりました。その理由は、まず第一に、日本の現代思想に関心をもつ学生が増え、欧米の思想もそれとの関係でやった方がいいと思ったことでした。また、文化的にもいわゆるサブカルチャーの隆盛などで学生の関心が大きく変わり、私自身も、専門のヘーゲル研究をするなかで「消費」や「流行」の問題に関心を持ったということもありました。それで「消費文化論」を新しく開設したり、ゼミでは現代日本の思想やサブカルチャーを扱い、講義では前と同じように欧米の思想（主に近代ヨーロッパ）を扱うことにしたのですが、この2つを融合することが十分に出来ず、欧米の思想を卒論でやる学生が大きく減ってしまったのは残念です。ただ、そのころから地域貢献ということが強調されるようになり、私自身も岩手出身ということで、高野長英、三閉伊一揆の三浦命助、新渡戸稲造を中心に岩手の近代思想史についての講義をやるようになったのも改革後です。

在任中の最大の出来事は言うまでもなく東日本大震災でした。釜石には知り合いはあらず、また亡くなった親戚もいなかったのですが、何かやらなければと思い、仙台で震災後行なわれていたのを見習って、一般の市民の方対象の「哲学カフェ」を卒業生や学生にも協力を仰いでしばらく盛岡で開催していました。けれども、釜石や宮古での「哲学カフェ」が意気込みほどうまくいかず、それぞれ1回きりで終わってしまったのが心残りです。

最後に私の「ブラインド板書」のエピソードについて。それが学生の間で有名だという話はある時から聞くようになったのですが、それまで自分では意識していませんでした。講義をしながら体でリズムをつけたいという無意識の欲求が、黒板に書くという行為となって現われたようで、読めない字で迷惑をかけたこともあると思います。ただ、重要な用語などはレジュメにあるので、板書を読んでもらおうという意図はあまりなかったのです。今から思えば「話にリズムをつけるためのものなので、読めなくてもいい」と断っておけばよかったのですが。

目次

定年退職を迎えて……………	1
これからの予定……………	1
高塚先生のご葬儀に 参列して……………	2
七友会主催 進路選択 セミナー開催……………	2
OB奮闘記……………	4
七友会盛岡市役所支部 設立される……………	5
評議員会開催案内……………	5
会員の皆さん、連絡先 をお知らせ下さい……………	6
募金に協力を！……………	6
新学部長決まる……………	6
ご退職される先生……………	6

これからの予定

10 / 19 (土)	10 / 19 (土)	6 / 22 (土)	4 / 5 (金)	3 / 22 (金)
式典	懇談会	卒業生・修了生と学長との	入学式	卒業式
岩手大学創立七十周年記念				

高塚先生のご葬儀に参列して

遠藤 隆



今年1月1日に逝去された高塚龍之名誉教授（岩手大学副学長、人文社会科学部学部長などを歴任）のご葬儀に参列しました。大変感動的なご葬儀でした。

岩渕明学長の弔辞によると、高塚先生は昭和48年（1973年）に京都大学大学院工学研究科博士課程を卒業後、明石工業高等専門学校に奉職し、昭和52年（1977年）岩手大学人文社会科学部設立とともに助教授として着任され、平成元年（1989年）に教授に昇任。平成13年から17年まで学部長と大学院研究科長。18年から22年まで副学長として大学運営に尽力されました。さらに退職後は原発ゼロ社会を目指す社会的活動や、憲法問題、平和運動にも尽くされたということです。

またご葬儀のおしまいにご長男の高塚孝文（たかふみ）様が会葬御礼のご挨拶をされました。この中で先生が昨年5月にすい臓がんの告知を受けられてからのことをご紹介されました。5月に余命半年と告知を受けられてから

も先生は、岩手県立産業技術短期大学校の教壇に立ち続け、9月の学期末まで任務を全うされたということです。その後入院され、亡くなる直前の12月29日にはお孫さんたちにクリスマスプレゼントだということでお小遣いをあげて、31日は高塚先生の年越し蕎麦を囲んで、奥様や孝文様たち3人の御子息が先生の病室にお見舞いをされました。翌日奥さまに見守られて息を引き取られたとのことでした。式の中で司会の方が紹介されていましたが、明石工業高等専門学校時代は、理系の学生相手ということもあって「鬼の高塚」と言われて厳しい指導をしましたが、岩手大学に移ってからは、文系の学生相手ということで「仏の高塚」に変身して、物理をわかりやすく教えることに徹して下さったとのことでした。その「仏の高塚」そのままに、最晩年も学生に対して、またご家族に対して愛情豊かに接しておられたことが、ご子息のご挨拶からも伺え、参列した人は深い感銘を受けました。

これまでの長年にわたる岩手大学および人文社会科学部へのご功績、またご指導ご鞭撻に心より感謝申し上げます。

安らかに休息ください。

七友会主催 進路選択セミナー開催

～講師 村井 聡さん（盛岡市役所）、大友 遥さん（テレビ岩手）～

2月8日、恒例となっている七友会主催の進路選択セミナーが岩手大学で開催されました。会場には1年生を中心に60人余りの学生が詰めかけ熱気に包まれました。

講師は2017年国際文化課程欧米研究卒でテレビ岩手報道部に勤務する大友遥さんと、2003年地域文化コース地域文化基礎研究卒で盛岡市役所ものづくり推進課に勤務する村井聡さんが務めてくれました。

大友さんはまず自らがリポートしたニュース企画を学生に視聴してもらいました。内容はピアニストの西村由紀江さんが盛岡市内の小学校で演奏会を開催し、会場で、以前不登校で苦しんでいた女性が西村さんと17年ぶりの再会を果たした様子が紹介されました。女性は西村さんの「音楽のチカラ」に勇気づけられて立ち直り、その後大学に進学し今は結婚しているということが感動的に描かれていました。大友さんは



大友 遥さん



学生の質問に答える講師陣と遠藤会長

が化膿する「謎の病気」に見舞われ、進学が1年遅れたそうです。岩手大学に入学しましたが、病気の再発に不安を感じて、1年生の時から積極的に単位を取って、仮に病気になっても単位不足にならないよう備えたと言います。また病を得ても仕事が続けられるよう資格のある仕事に就こうと在学中から司法試験にもチャレンジしたそうです。村井さんが就職活動をしていた時期は「氷河期」と言われる厳しい時代で、民間企業は受けず様々な公務員試験を受けて岩手県職員と国家公務員2種に合格し、国家公務員として盛岡社会保険事務所に勤務しました。しかし大学を出たばかりの自分が、年上の先輩の業務指導をするような仕事内容や年金のことに追われる仕事を生涯の仕事としたくなくて、転職を考えていた矢先、市町村職員の充実ぶりに感銘を受けて盛岡市役所の採用試験にチャレンジし、27歳で市役所職員として再スタートを切りました。市役所では広報の仕事で五木寛之や小錦、GENERATIONSなど著名人にインタビューした事、岩手県立大学の共同研究員となつてシンガポールの実地調査にも赴いたことなど、多忙ながら充実した毎日を送っていることを紹介しました。村井さんは進路選択のポイントとして①進路の結果は死ぬまでわからない。②ワークライフバランス（仕事と生活の調和）にこだわり過ぎないこと③自分の感覚が一番大事④年上のいう事を鵜呑みにしない⑤夢より目標を大事に。と挙げていました。

聴講した学生はレスポンスカードに「人生における仕事とは何かを考えるきっかけになった。」「就職活動に向かう勇気をいただきました。」などの感想を寄せていました。

日々のニュースにはいつも発見があることが自らの仕事のやりがいになっていることを話しました。また就職活動については、学生時代に最も熱心に取り組んだことがあれば力になると語り、大学2年生の時にミスさんさに選ばれ、国内外でさんさ踊りの魅力を発信したことが面接のときにも生かされたと語りました。さらに会社説明会に臨む心構えとして、①興味のある会社を優先する。②質疑応答の時間は積極的に質問すべし。③説明会の時には社員同士の様子を見て会社の雰囲気をつかむこと。など実践的な就活の方法にも触れました。

村井さんは大学進学を目前に控えた高校3年生の時に、お腹



村井 聡さん



聴講する学生の皆さん（1年生中心）

講師・アドバイザーとして協力していただける方はお知らせ下さい。特に若手や女性の講師の要望が多いので、同窓会からお願いすることもあります。

その際は、是非、御協力下さるようお願いいたします。様々な仕事、経験をお持ちの方にお話ししたいと考えていますので、自薦・他薦よろしくお願ひします。

次回は… 2019年6月21日(金) を予定しています。

学生の皆さんへは、学部就職委員会を通じお知らせします。

OB 奮 闘 記

遠藤隆氏(1期生)制作のドキュメンタリーが文化庁芸術祭受賞

遠藤隆氏(1期生・テレビ岩手勤務)が24年間取材を続け、平成30年11月に放送した、岩手県田野畑村の酪農9人家族、吉塚公雄さん一家のドキュメンタリー「山懷に抱かれて」が平成30年度第73回文化庁芸術祭のテレビドキュメンタリー部門で優秀賞を受賞しました。岩手県のテレビ局で芸術祭賞を受賞したのは初めてです。

吉塚公雄さんは夏も冬も牛を山に放ち、山の草と自前の牧草だけで牛を育てる「山地酪農」(やまぢらくのう)という限りなく自然な酪農を営んでいます。山地酪農で得られる牛乳は安全でおいしいのですが、採れる量は濃厚飼料を使って牛舎で飼う一般の牛の3分の1以下で、1994年取材を始めたころは、年収100万円にも満たない状況でした。その後「田野畑山地酪農牛乳」というプライベートブランド牛乳を生産販売し、生活費まで借金する状況をどうにか脱しました。

番組は吉塚さんがこだわる山地酪農の実態や、今でこそ一般化している6次化産業の先駆けとなった牛乳生産と販売の様子、また幼いころは父の言いつけに素直に従ってきた子供たちが、成長するにつれて反発し父を乗り越えようとする姿をありのままに撮影しています。

文化庁は受賞理由として「四季を通じて山に牛を放ち、牧草だけで酪農を続ける一家の、実に24年にわたる奮闘を記録した叙事詩的大河ドキュメンタリーとも呼ぶべき執念の作品。環境と気候の厳しさはもちろんだが、子供たちの成長に連れ、頑固一徹の父への敬意と対立の様子がていねいに描かれる。長期間記録ならではの登場人物への親近感がしだいにふくらみ、牛農家への共感もさそって、いつしか画面の前で、家族の一員になっている自分に気づかされる。」と高く評価しました。

授賞式は2月14日、東京都内のホテルで行われました。

なお受賞作を基にして再編集した劇場映画「山懷に抱かれて」が4月27日から東京のポレポレ東中野で。また5月下旬からは盛岡でも上映されます。



永岡文部科学副大臣から賞状を受ける遠藤氏

落安昭三氏(1期生)日本ファイナンシャルプランナーズ協会岩手支部長に就任



FP協会岩手支部会員の皆さん

1期生の落安です。2018年4月に日本ファイナンシャル・プランナーズ協会(以下FP協会)岩手支部の支部長に任命され日々充実した生活を送っています。同窓生の多くの方はファイナンシャルプランナー(以下FP)って何?と思うのではないのでしょうか。

FP協会は会員数20万人を超え、岩手支部も1千人弱を有します。支部会員には同窓生もあり時には自然と同窓会話に花を咲かせたりすることもあります。目的は広く一般市民に向けてファイナンシャル・プランニングの啓発と普及を図ることにあります。ファイナンシャル・プランニングとは人生の夢や目標を叶え幸せな人生を実現するために総合的な資金計画を立て、お金の面から家計の手助けをすることです。

幸せの定義は人それぞれかと思いますが、私は心の健康(生きがいなど)と体の健康、そしてお金の健康、この3つがバランスよく備わっていないと幸せな人生を送ることは難しいと考えています。FPは家計にかかわる金融、税制、住宅ローン、教育資金、年金制度など幅広い知識を駆使しお金の健康をサポートする家計のホームドクターと言えます。



講義する落安氏



FPフォーラムin岩手の様子

岩手支部では、一般県民・市民向けに講演会・相談会等を毎月開催し多くの方の来場をいただきFPの認知・普及や金融リテラシーの向上を図っています。また東日本大震災の被災者には、FP知識を生かし、生活再建、住宅再建に向けた相談を県と連携し被災者支援活動に参画しています。

以上FP協会、FPに関してまとめてみました。FPをいくらかでも理解していただければ幸いです。還暦も過ぎ仕事も自然とフェードアウトしつつある私にとっては、FP活動を通してささやかでも社会貢献に寄与できる喜び・心の健康と人生100年時代と言われる昨今生き抜くお金の健康を現在進行形で一緒に学んでいます。最後に同窓生の皆さん、講演会等に気軽にご参加ください。家族やご自身のライフプランを考える機会にきっとなるはずです。

次回相談会：4月21日（日）午後1時から 会場／県民生活センター（盛岡市）

七友会 盛岡市役所支部設立される

七友会盛岡市役所支部の設立総会が、2018年8月24日開催されました。盛岡市役所の七友会会員は175名（2018年8月現在）もいて、およそ2000名の市役所職員の8%以上を占めています。岩手大学の学部ごとの出身者のうち最も多いということで、総会には、来賓の遠藤会長を含めて95名が参加するという盛況ぶりでした。発起人代表の中野玲子会計管理者（1期生・経済専攻）のあいさつに続いて会長と副会長の選任が行われ、会長には中野氏、副会長には長澤秀則農林部長（3期生・行動科学専攻）が選出されました。盛岡市役所の七友会会員では中野氏、高橋享孝氏（6期生・法学専攻）と大志田研氏（6期生・経済専攻）が理事になっていて会の運営に力を尽くしていますが、多くの会員を有する盛岡市役所支部が結成されたことにより同窓会の活性化に貢献することが期待されます。



平成30年8月24日 「エスポワールいわて」にて

2019年度 評議員会開催案内

2019年度の七友会評議員会を下記の日程で開催いたします。

評議員の方で出席できる方は、郵便あるいはHP（shichiyukai.net）等を利用しお知らせ下さい。出席される方の旅費等については、予算内において同窓会が補助します。

なお、評議員以外の方も参加できますので、事前にお知らせ下さい。

記

- | | |
|----|--|
| 日時 | 2019年6月22日（土）13：00～15：00 |
| 会場 | 未定（後日お知らせします） |
| 議題 | 1. 2018年度 事業報告及び会計決算報告について
2. 2019年度 事業計画(案)及び会計予算(案)について
3. その他 |

会員の皆さん、連絡先をお知らせ下さい

同窓会では、毎年このような会報を発行しています。これらを皆さんに送るためには、連絡先の把握が重要になりますが、転居等で連絡先が不明になることが多く、現在、4割強の方が不明状態になっています。

連絡先は現住所でも実家等家族住所でも構いませんが、確実に連絡のつくところをお願いします。転居等の際には郵便局への届出と共に、事務局へもお知らせ下さい。

なお、寄せられた情報は同窓会活動のみに利用されるもので、事務局で一括管理されています。また、会費については、ほとんどの方が入学時に納められていますので、特に請求されることはありません。同窓会活動は、ほとんど会員のボランティアで運営されています。今後の学部的发展及び同窓生の親睦のための活動に、ぜひ御協力下さい。

※ 友人で会報の届いていない方は、連絡先不明になっている可能性があります。すぐ下記連絡先情報により七友会へお知らせ下さい。

連絡先情報

ふりがな 氏名	(男・女)	卒業 専攻	期 (S H (コース 課程)	年	月卒) 研究室 ゼミ等	封筒にある整理番号 No. _____
現住所 〒						
(自宅) TEL FAX	携帯		勤務先名等 (可能なかぎり)			
E-mail						
家族等連絡先 〒						

岩手大学創立70周年記念事業 イーハトーヴ基金「特定基金」への 募金に協力を！

岩手大学は、1876年設立の盛岡師範学校を起源とし、宮澤賢治が学んだ盛岡高等農林学校や盛岡工業専門学校を統合・承継して、1949年に新制国立大学として発足しました。その後、2004年に国立大学法人として新たな歩みを進め、本年創立70周年を迎えます。この記念すべき年を迎えるにあたり、大学では各種の記念行事を行うこととしており、教職員、学生の大学構成員をはじめ、同窓生や学生の保護者、産官民の多くの関係者の皆様に広く声をかけ、募金活動を行っています。特に、七友会の皆様にはこの趣旨をご理解いただき、ぜひ募金にご協力をお願いいたします。

- 今回の創立70周年記念事業募金は「特定基金」として、岩手大学の復興活動記念記録誌の製作や国際シンポジウムの開催（予定）に活用されます。
- ご協力頂いた方々には岩手大学ホームページへの氏名掲載等の特典があります。
- 振込方法等の詳細は岩手大学イーハトーヴ基金ホームページをご覧ください。

目標金額 3,000万円

募集期間 2018年7月～2019年10月

一口金額 個人／5,000円
法人団体／10,000円

新学部長 決まる！

3月31日で任期満了となる横山英信学部長の後任に山本昭彦教授（62歳）が選出されました。専門は、表象文化論・比較文学論で、任期は2019年4月1日から2年間です。今後のご活躍が期待されます。また、横山学部長におかれましては、4年間お疲れ様でした。

ご退職される先生

■ 3月末で定年退職

・ 池田 成一教授：人間文化課程（旧 国際文化課程）
専 門：社会文化思想論・消費文化論

■ 3月末で退職（早稲田大学へ転出）

・ 江原 勝行准教授：地域政策課程（旧 法学・経済課程）
専 門：憲法

岩手大学人文社会科学部同窓会 <七友会>

〔連絡先〕 020-8550 盛岡市上田3-18-34
岩手大学 人文社会科学部内「七友会」宛
電話：019-621-6701 FAX：019-621-6715

ホームページもご覧ください！

<http://www.shichiyukai.net/>